

# ATEM Newsletter

発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルク高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail office@atem.org  
郵便振替 00820-3-1477

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies



ATEM 全国大会特集号

Newsletter No. 23 2012. Sep.

## ATEM 大会の発展と国際化 大会担当専務理事 亀山太一（岐阜工業高等専門学校 教授）

平成24年8月6日、盛夏の京都において、第18回全国大会（大会テーマ：映画で異文化理解を深める - Deepening Intercultural Understanding through Movies）が開催されました。会場となった京都女子大学は、京都国立博物館と三十三間堂の間の七条通りを東に抜け、妙法院と智積院の間の通称「女坂」と呼ばれる坂を東山に向かって登った突き当たり、閑静な、まさに京都らしい雰囲気の中にありました。今大会のメニューは、中部支部企画のワークショップを皮切りに、PARK Mae-RanによるSTEM特別発表、22件の自由研究発表と2つのシンポジウム、北海道支部企画の特別発表、そして最後にジェフ・バーグランド先生による特別講演と

盛りだくさんな内容で充実した大会となりました。参加者の数も、過去最高を記録した昨年度の大会には及ばないものの、160名という多くの方が来場してくださいました。会場によっては席が足りなくなるほどの盛況で、しかもそれが最後の特別講演まで続いたのは、運営委員会にとってはまさにうれしい悲鳴でした。今回は、これまでと比べて比較的多くの発表が英語で行われたのも特徴の一つと言えるでしょう。英語教育系の学会であっても日本語による発表が大半である場合が多い中、STEM会員による発表も含め、約半数の発表が英語で行われたのは、国際化を目指す本学会の今後の発展に寄与するものであると期待します。

### 開会式と閉会式

開会式は角山照彦（ATEM 会長）、PARK Young（STEM 会長）、川本重雄（京都女子大学学長）の挨拶が、倉田誠（ATEM 国際交流専務理事）の司会により英語で行われ、閉会式は藤枝善之（ATEM 大会実行委員長）の英語による挨拶で閉じられ、会場は満席であった。



◆特別講演 Special Lecture

映画で学ぶ異文化コミュニケーション

Movies in the Intercultural Communication  
Classroom

講演者: ジェフ・バーグランド

Jeff Berglund

(京都外国語大学教授、タレント、作家)

司会: 北本晃治 (帝塚山大学)



キーワード: 箸と箸とで繋ぐ絆、文化の深層、

非言語コミュニケーション

非言語コミュニケーションには意識的・無意識的なものがあり、それは文化のコンテキストによって異なるが、身体行為、顔の表情、服装、目線、位置空間、

時空、接触、匂いなどを通して成り立ち、異文化コミュニケーションの理解には不可欠である。たとえば、箸には古来伝来の文化がある。そして、25本の映画リストから韓国映画『おばあちゃんの家』\*(*The Way Home*)を選び、本映画でシーンからシーンへと流れる映像の中の祖母と少年の動作や表情を通して、二人の心の交流、そこに無言のうちに生じているコミュニケーションを解説した。バーグランド氏はアメリカの南ダコタ州で生まれ、現在は京都の町家に暮す、日本語の達人である。本講演では異文化コミュニケーション論考を英語で話された。(\*2002年製作、韓国アカデミー賞・大鐘賞最優秀作品賞/最優秀脚本賞を受賞した作品)

◆STEM 特別発表 Special Presentation by STEM

Teaching Intercultural Understanding through Movies:  
When American Movies Meet with Intercultural Issues

発表者: PARK Mae-Ran (Pukyong National University)

司会: 網野千代美 (中部学院大学)



In the special presentation, Dr. Park focused on the following things: intercultural communication, intercultural competence, cultural differences, intercultural conflict, intergenerational conflict, racism, and stereotypes. In order to teach those intercultural issues to English learners, Dr. Park proved how movies can be effectively used in class using the American movies such as *The Joy Luck Club*, *Snow Falling on Cedars*, *Falling Down*, and *Do the Right Thing*, and compared and contrasted them. Also, Dr. Park showed the audience three steps she uses in the classroom: pre-viewing activities, while-viewing activities, and post-viewing activities which help students to discuss movies or individual scenes. Through these activities, students gain a deeper understanding of cultural issues. Dr. Park's informative presentation inspired the audience to use cross-cultural movies to effectively teach English as a foreign language.

Key Words: intercultural communication, intercultural competence, intergenerational conflict, racism

Summarized by Chiyomi Amino

**支部企画 北海道支部特別発表**

**台詞・字幕・吹替に注目した映画教材化の試み — 異文化への気づきを促す指導**

発表者：松田愛子（翻訳者）／三浦寛子（北海道工業大学）／水島梨紗（札幌学院大学）

司会：大木正明（大分工業高等専門学校）

**キーワード：社会言語能力の養成，字幕・吹替え，ステレオタイプ再考，異文化に気づかせる指導**

社会言語能力を伸ばす教材づくりの提案として、映画の字幕・吹替え翻訳の特徴を紐解き、言語や文化の違いがもたらす台詞と訳語のギャップの背景を理解させ、対人関係に配慮した表現を気づかせる具体例が紹介された。



・北海道支部特別発表の会場



・シンポジウム(1)の会場



・シンポジウム(2)の会場

**支部企画 西日本支部 シンポジウム(1)**

**映画で学ぶジェンダーと文化**

司会：小林明子（九州産業大学）

- ◇ 「男やめめ」の描き方に見る性別役割分担 藤倉なおこ（京都外国語大学）
- ◇ 『ラースと、その彼女』に見るアメリカの草食系男性 國友万裕（同志社大学）
- ◇ 『ジェイン・エア』 — ヴィクトリア朝の家庭重視イデオロギー 杉浦清文（神戸大学）

**キーワード：『アバウト・シュミット』の妻と夫の性別役割、『ラースと、その彼女』の男性像、『ジェイン・エア』のジェンダー構造**

*About Schmidt* (2001) と *Everybody's Fine* (2009) に描かれた寡夫、*Lars and the Real Girl* (2007) における男性像を通して、アメリカ家庭の妻と夫の性別役割分担や人間の代行をする人形の分析、*Jane Eyre* (1996) に描かれたイギリス家庭の男性中心主義はヴィクトリア時代と現代に共時であると解説された。

**支部企画 東日本支部 シンポジウム(2)**

**映画を読み取る力 — 異文化理解とメディア・リテラシー**

司会：秋山敏晴（北海道工業大学）

- ◇ 異文化コミュニケーションの壁を越えて — 映画を通じたステレオタイプからの解放 花光里香（早稲田大学）
- ◇ 映画英台詞に見るステレオタイプ化 — アニメ映画『ポカホンタス』を中心に 大月敦子（相模女子大学）
- ◇ 『ブラック・スワン』：ステレオタイプとしての多重人格 清水純子（慶應義塾大学）

**キーワード：日本文化の気質，脱ステレオタイプ，『ポカホンタス』の二項対立，『ブラック・スワン』の多重人格性**

異文化理解を深めるためには映画を読み取る力、即ちメディア・リテラシーが必要。stereotype and prejudice や binary oppositions や multiple personalities の視点から映画の場面やセリフについて解説された。

## 自由研究発表一覧

第18回全国大会での自由研究発表数は22件で、英語による発表は半数ありました。一覧表には、研究発表タイトル、発表内容のキーワード、発表者名と所属先を掲載してあります。

※キーワードは広報委員会で作成しました。※姉妹学会 STEM 会員は[STEM]と表示してあります。

No	研究発表タイトル	キーワード	発表者名・所属先
1	英語を使用するビジネス環境における呼称の使用の分析	呼称, ビジネス環境, 呼称の使用状況	杉浦綾子 (東京都市大学)
2	Movie Dialogues Let the Truth Slip - Understanding of the Japanese & Culture in Transition	culture in transition, images, movie dialogues, the truth in movies	Wako ONODERA (Translator)
3	Redundant Modal Expressions in English Movies	typical use modal *can*, quasi-modal *be allowed to*	Keiichi ETO (Tezukayama University)
4	コミュニケーション・ストラテジーの習得のために — 映画に見られる相手への配慮「断り」の場面から —	相手への配慮, 断り, コミュニケーション・ストラテジー	越智希美子 (松山大学) 鈴木光代 (東京女子医科大学)
5	外部テスト・ライティング問題対策指導法の開発と実践 — IELTS・TOEIC Writing テストを中心に —	外部テスト・ライティング対策, プロダクティブ・スキルの育成	平野順也 (金沢星稜大学)
6	Learning -ly Adverbs Through Movies: Manner Adverbs and Sentence Adverbs	manner adverb, sentence adverb, usages and features in movies	Natsuki MATSUI (Chulalongkorn University)
7	A Study of the Conversational Control of Phoebe from Friends	conversational skill, the character 'Phoebe', the lead in conversation	LEE Ji-Hyun (Kookmin University) [STEM]
8	『その名にちなんで』と『モンスーン・ウェディング』におけるコード・スイッチングの機能	コード・スイッチング, アイデンティティ, 多言語社会	山口美知代 (京都府立大学)
9	Screenplay を用いた学習者中心型授業の試み	グループワーク, 映画シナリオ, 能動的学習	野原俊子 (平成国際大学)
10	Smart Use of Smart phones: QR Codes in the Classroom	Smart-phone, QR-codes, Internet, paperless task	Michael JONES (Woosong University) [STEM]
11	Dubbing of a Subtitled Movie	voice-actor, video-recording, presentation	Shuji NARITA (Osaka University)

No	研究発表タイトル	キーワード	発表者名・所属先
12	動画共有サイトの有用性とインタビュー / トーク動画の活用例	インタビュー, トーク動画サイト, 米語と英語の温度差, 異文化交流	三村仁彦 (京都外国語大学)
13	映画英語コーパスを用いた相槌表現 Absolutely の考察	映画英語コーパス, 相槌表現 Absolutely, 語法分析	山本五郎 (広島大学)
14	Japanese Comic Books and Animation as English Language Material	effective English learning tool, the PREMA, the validity of Japanimation	Hironobu OKAZAKI (Akita Prefectural University), Haruhiko NITTA(Senshu University), Kazuhiko KIDO (International Pacific University), Eri FUKUDA (Soka University)
15	How Do We Define Authenticity? - Focusing on Corpus Linguistics	spoken corpora, movie-dialogues, authenticity	RHO Yoon-Ah (Mokwon University) [STEM]
16	介護福祉士養成課程における映画を利用した高齢者理解について	昭和初期の英語教科書, 生活文化, 高齢者理解と映画	山内 圭 (新見公立大学)
17	映画で学ぶ of course の語用論	of course の分析, コミュニケーション機能, 映画セリフ	西川眞由美 (摂南大学)
18	A Contextual Meaning of a Grammatical Construction in a Movie	contextual meaning, present perfect tense	KIM Hye-Jeong (Seoul National University of Science and Technology) [STEM]
19	Developing e-Learning Course Materials Utilizing Movies in the Public Domain — Does it help increase students' out-of-classroom study time? —	out-of-classroom learning, film-based e-learning, public domain films	Teruhiko KADOYAMA (Hiroshima International University)
20	『ハリー・ポッターと賢者の石』の冒頭, Dumbledoreは何をしているのか? — 映像に織り込まれた言葉からの考察 —	映像言語, 共時の異界, 通時の異界	岡本俊裕 (京都外国語大学)
21	学習者の構文理解を目指して — 英語の移動表現を出発点に —	移動構文, 動詞の補助語句, 英語独特の発想	濱上桂菜 (大阪大学大学院・院生)
22	効果的なイディオム指導法 — 英語進展表現 more and more を例に —	比較級 and 比較級, 構文, 映画セリフ	小林 翠 (大阪大学大学院・院生)

## 第18回総会の総括

ATEM 第4代会長 角山照彦 (広島国際大学 教授)

総会では、2011年度決算報告および会則改定の提案があり、  
 会則については、北海道支部の結成および会員管理システムの支部運用開始に対応するため、  
 に関する会則のうち、第10条第1項を修正し、47都道府県を  
 5支部でカバーする体制とした。修正後の会則については本  
 学会 HP の規定集をご参照されたい。

## 第1回優秀論文賞の表彰



・角山会長から第1回優秀論文賞の表彰状が贈呈



・左より、岡崎先生、角山会長、新田先生、木戸先生

2011年度の紀要第17号の論文募集からスタートした優秀論文賞の第1回選考結果の発表を行い、受賞論文『オリジナル学習支援プログラム「映画英語リスニング・システム」の実践的運用とその検証』の執筆者である岡崎弘信(秋田県立大学)、新田晴彦(専修大学)木戸和彦(環太平洋大学)の3氏に表彰状ならびに副賞の贈呈を行った。

### 受賞者の声 岡崎弘信・新田晴彦・木戸和彦

この度は記念すべき第一回論文賞を頂戴し、誠にありがとうございます。本論文で我々は学習者の個々のリスニングの弱点を集中的に矯正するためのeラーニングプログラム「映画英語リスニングシステム」の有効性を検証しましたが、論文賞受賞はその成果を認めて頂いたものと確信しております。当システムは既に複数の大学の先生方にご利用頂いておりますが、映画という素晴らしい素材で効率的な英語学習ができるよう今後とも研究・開発を行って参りたいと存じます。更なるご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 支部企画 中部支部

### ワークショップ

### 「英国王のスピーチ」を使用した iPen 学習法の紹介

プレゼンター： 網野千代美 (中部学院大学) / 久米和代 (名古屋大学) 司会： 塚田三千代 (映画・映画英語アナリスト)

↓ iPen とテキスト:「ローマの休日」



キーワード: iPen 学習法、教材キット、スクリーンプレイ

会場は参加者で満席になり立ち席に溢れた。全員に iPen とテキストが貸与され、会話を聞いてそのシーンをあてるクイズを交えながら操作機能が説明された。iPen で操作して、お馴染みのスクリーンプレイ「ローマの休日」の中の語句と会話のリスニング/シャドーイング/自分の音声を録音して再生、などを瞬時に体験ができた。テキストと iPen があれば、どこでも英語を学べる、いわば、ユーザーにとって効率的な学習支援となる教材キットである。テキスト「英国王のスピーチ」は、著作権取得の遅延で当日は間に合わなかったが、9月末に発行された。

← 網野先生と久米先生による iPen 学習法の紹介



↑ 大会後の懇親会、翌日の京都観光バスツアーや京都駅での見送りを通して STEM 会員と ATEM 会員の国際親善が深まりました。

## 支部だより

### 北海道支部: 支部長 秋山麻晴

本年1月の支部設立以来、多くの方々にご支援、ご協力をいただき、北海道支部は順調に歩み始めました。支部開設以来、毎月、勉強会を重ね、第18回 ATEM 全国大会では「台詞・字幕・吹替に注目した映画教材化の試み～異文化への気づきを促す指導～」と題した特別発表へとつなげることができました。この機会は、支部にとって大きな励みとなったことは言うまでもありません。「映画の教材化」を標榜する北海道支部は、新たな視点で研究を進め、明年1月12日(土)に、第2回支部大会を、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにて開催し、研究の成果を発表したいと考えております。多くの方々の参加をお待ちいたします。

### 中部支部: 支部長 寶壺貴之

中部支部では、平成24年7月14日(土)の午前には中部支部研究大会を、そして午後には恒例の第14回映画英語フェスティバルを名古屋駅近郊にある名古屋国際センターにて開催いたしました。支部研究大会では、ワークショップと研究発表を行い3名の先生方(秋好礼子先生・福岡大学、松葉明先生・名古屋市立平針中学校、井土康仁先生・藤田保健衛生大学)に発表していただきました。フェスティバルには約200名の参加者をお迎えし、米国第83回アカデミー賞作品賞等受賞で、第1回映画英語アカデミー賞(高校生部門)受賞映画『英国王のスピーチ』を鑑賞した後、井上雅紀先生(愛知淑徳高等学校)の英語解説、最後に ZIP-FM ミュージックナビゲーター落合健太郎さんの楽しいトークで締めくくりました。

### 九州支部: 支部長 小林明子

九州支部は2012年に三役が総替わりし、支部始まって以来の大幅な役員の入替えを行いました。そのせいもあって夏の全国大会には準備不足のために発表やシンポジウムでの参加が叶わず、西日本支部をはじめ、他支部に色々ご迷惑をおかけしてしまいました。改めてお詫び申し上げます。現在支部大会に向けて、役員を中心に九州が一丸となって準備の真最中です。九州新幹線

のおかげで行き来も随分楽になりました。今後も九州支部の最大の売りである「楽しく、和気あいあいとした雰囲気」を保ちながら、さらに「会員一人一人の研究分野を生かせるような発表・意見交換の場」になることを願っています。シーズン2に入った九州支部を今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

### 東日本支部: 支部長 吉田雅之

昨年12月より東日本支部長を拝命しております。5月に有志による『映画英語授業デザイン集』を出版しました。本書には、すぐに使える映画を用いた25種類の授業案を紹介してあります。また付録として授業で使えるテーマ別の「映画10選」を46ページ分、掲載してありますので、御利用いただけましたら幸いです。

◇ 2月に文法・語法面の例会、5月に文学面の例会、そして7月に皆で同じ映画を見た後、グループ別に授業案を紹介する例会を開きました。

◇ 第3回支部大会を11月25日に開催します。特別講演は、「占領期のアメリカ映画公開とアメリカニゼーション」 谷川建司(たにかわたけし)早稲田大学客員教授/映画評論家(ジャーナリスト)。その他に研究発表もあります。詳細は支部HPに掲載。

### 西日本支部: 支部広報委員長 横山仁視

◇ 第18回全国大会の前夜8月5日、関西支部10周年記念行事の一環として懇親夕食会をホテル京阪京都にて開催しました。多くのATEM・STEM関係者の方の参加を得、更なる発展を誓いました。

◇ 全国大会の翌日8月7日、関西支部主催のATEM・STEM関係者との京都バスツアーを開催し懇親を深めました。平安神宮、京都ハンディクラフトセンター、西陣織会館着物ショー、サントリー山崎蒸留所を見学しました。

◇ 第10回支部大会を11月25日(日)、京都外国語大学で開催します。シンポジウムのテーマは「『英国王のスピーチ』徹底活用法」。その他、三熊祥文氏(広島工業大学)による講演「英語スピーチ論」と研究発表があります。詳細は支部HPにて。

## 映画英語教育学会決算報告

(※2011年度から決算報告の会計期間が変更になりました。)

### 第18期 映画英語教育学会【決算報告書】 2011年4月1日～2012年3月31日

収入の部		2011年4月～2012年3月		支出の部		2011年4月～2012年3月	
前年度繰越			762,143	大会開催費	大会開催総費用		535,042
会員年会費	2004,2005年度分@3,000	2	6,000	紀要発行費	紀要印刷費(抜刷り)		18,795
	2010年度分@5,000	16	80,000	ニューズレター発行費	ニューズレター印刷費		42,840
	2011年度分@5,000	179	895,000	ホームページ維持費	プロバイダー基本料金他		52,387
	2011年度分@4,000	1	4,000	研究活動費	支部活動助成		200,000
	2012年度分@5,000	23	115,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他		13,650
賛助会費	2011年度分@5,000	1	5,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他		174,606
	2011年度分@10,000	6	60,000	支部助成金	支部フェスティバル助成		150,000
大会参加費	@500	83	41,500	新支部設立費	北海道支部設立諸経費		62,600
大会懇親会費	@4,000	56	224,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他		381,660
書籍売上	紀要・ハンドブック・教育論		48,000	雑費	振込料他		7,085
受取利息			61	消耗品費			12,908
書籍送料			2,490				
預かり金			4,410				
				小計			1,651,573
					みずほ銀行		94,750
					郵便振替口座		492,966
					小口現金		8,315
				翌年度繰越金			596,031
合計			2,247,604	合計			2,247,604

※個人会員463名・賛助会員8社

2012年5月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 長田 美保

秋月 剛

## お知らせ

- ・ 映画英語教育学会の第19回全国大会は、2012年8月6日(火)に、東日本支部の相模女子大学で開催します。詳細はホームページに掲載しますのでご覧ください。
- ・ ATEM会員管理システムには、会員皆さま方の情報を確認・修正して頂ける会員専用ページを作成しておりますのでご利用ください。「会員専用ページ」のURLは下記の通りです。

<https://www.atem.org/member/>

問い合わせ先: 映画英語教育学会(ATEM)本部事務局 TEL: (03)3365-0182 E-mail: office@atem.org

## 編集後記

Newsletter No. 23 は第18回全国大会の特集号としました。先生方が研究に使用された英語の映画数は、広報委員会の集計では65本で、多様な映画が研究や教育実践に活用されています。京都大会でATEMは未来へ向けて跳躍しました。次号は2013年4月に発行の予定です。

2012/09/30 広報委員会(塚田・横山・清水・松田・大木) ©ATEM. All rights reserved.